

公立大学法人公立鳥取環境大学第3期中期目標(素案)に係るパブリックコメントの実施結果について

令和5年7月21日

総合教育推進課

公立鳥取環境大学の次期第3期中期目標(令和6～11年度)の策定にあたり、パブリックコメントを実施しましたので、その結果を報告します。

1 パブリックコメントの実施結果

- (1) 意見募集期間 令和5年6月23日(金) から 7月12日(水)まで(20日間)
- (2) 意見募集方法 とりネット、新聞広告、県の主要機関及び市町村窓口(電子アンケートも併せて実施)
- (3) 意見総数 32件(うち、電子アンケート18件)
- (4) 主な意見と対応方針

＜対応の区分＞反映する(◎) 既に盛込済(○)

項目	主な意見の概要	対応案	対応
教育	・SDGsの目標達成に貢献する人材育成の支援をしてほしい。	・SDGsの推進に貢献できるグリーン人材の育成について盛込済であり、取組を推進する。	○
	・デジタル技術の価値を効果的に得ることができるDX人材の育成をしてほしい。	・重要性を増すデジタル化への的確な対応について盛込済だが、教育内容としてデジタル人材の育成を明記する。	◎
	・大学のブランド力向上のため、よい教員の獲得や教員の能力向上に力を入れてほしい。	・多様な人材の確保及び教員の資質向上について盛込済であり、引き続き取り組む。	○
	・グローバル人材の育成のためには、CEFRのB1レベルに加え、更に高い英語力が必要だと思う。	・学生の能力に応じた、より高度な英語教育の提供について盛り込むとともに、学生全体の英語力の底上げも引き続き取り組む。	◎
就職支援	・県内就職率 30%としているが、県内に学生をとどめることに重きを置きすぎていると思う。県内外の数値に拘るより、学生の希望に沿った就職支援をすることが重要である。	・入学から卒業まで、一貫した就職支援を行うための体制強化、教員と職員が一体となった適切な進路支援について盛込済であり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。	○
	・県内就職率の目標値が示されてよかった。大学の力だけでは難しいので、目標に書かれているとおり、関係機関等と連携して高い数値を実現してほしい。	・県内産業界等と連携した県内定着に向けた就職支援について盛込済であり、今後も関係団体等と協働して取り組む。	○
入学	・入学選抜方法に県内限定の推薦枠があるが、選抜方法(一般・地域限定)の違いにより、入学後の学修の理解度に差が生じているように感じる。入試方法を継続するなら、学力を補う機会を設ける取り組みが必要。	・多様な学生が充実した学生生活を送られるよう学生の修学等の支援について盛込済であり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。	○
	・県内入学率を数値目標としているが、地域枠は既にあるので、一般枠で県内外の学生に選ばれるような大学の魅力向上が必要だと思う。	・大学の魅力向上や効果的な広報、県内高校との連携強化等の取組について盛込済であり、引き続き大学の価値やブランド力を高め、県内学生から積極的に選ばれる大学を目指す。	○
	・公立大学として、地元還元する努力が一層求められる。 ・県内からの入学生を増やすことが必要。現在の県内入学率では、県内就職率を上げるのは難しいと思う。	・県内入学率の数値目標を引き上げる。 特色ある教育や優れた研究成果の発信による大学の魅力向上や、県内高校との連携強化等について盛り込んでおり、県内学生から積極的に選ばれる大学を目指す。	◎
	・規模が小さいことを最大限に活かす自由な取組を期待する。ここに来れば何でも挑戦できるという校風があれば、大学のブランド力となり、意欲のある学生が集まってくると思う。	・規模の小さな大学ならではの利点を活かした特色ある教育や、優れた研究成果の発信、課題解決力を育む教育について盛込済であり、ブランド力を高め、学生の集まる大学の強みに繋がる教育を進めていく。	○

地域 貢献	・小さな県だからこそ、地域を意識した大学であってほしい。企業や地域と連携して実験や実践を進めるなど、地域貢献に取り組んでほしい。	・産業界、地域団体、自治体等との連携強化と協働研究等の推進、地域課題解決の役割を担う人材の育成について盛込済であり、引き続き地域の知の拠点として地域発展に取り組む。	○
広報	・大学、ひいては鳥取県のブランド力を上げるようなプロモーションが必要ではないか。	・特色ある教育や優れた研究成果などの強みや魅力を戦略的に発信し、大学のブランド力を向上させることについて盛込済であり、引き続き広報の強化に取り組んでいく。	○
研究	・教員の女性比率が数値目標となっているが、性別に関わらず本人の能力により判断されるべきであり、女性にとっても働きやすい環境づくりという観点で明記すべき。	・女性研究者・外国人研究者など全ての者が多様性を尊重され安心して研究に取り組むための支援や環境整備について盛込済であり、引き続き取り組を進めていく。	○

2 今後の予定

7月24日 評価委員会(第3回)の開催

8月上旬 新生公立鳥取環境大学運営協議会の開催

9月 鳥取県議会、鳥取市議会へ提案